

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 色彩嗜好の変動過程を数学的に解明することを目的とした。ある時点における嗜好の移動過程をマルコフ過程と考えると、その移動率は推移確率となる。このマトリックスを不変と考えて無限にくりかえした場合、色彩嗜好分布の均衡的終局状態を知ることができる。

2. 短大家政科女子学生(18~21歳)175名を対象に、日本色彩研究所作成の150色を用い、質問紙法によりパネル調査をおこなった。内容はこれから購入しようとする服の色彩を、季節別、服種別に1色ずつ選ぶ。そのうち、'65年度と'66年度とに選ばれた春のワンピース・ドレスについて分析をおこなった。

色彩の観察は、JISZ 8723にしたがった。

3. 色彩嗜好推移確率行列から、イエロー、ピンク、ブルー圏の相互間において循環移動性が強い。さらに主対角線上にあるブルー圏は定着率が高い。つぎに短期的予測をすると、ブルー、ピンク、イエロー圏はやや減少する。

さらにマルコフ・マトリックスの下で推移した均衡的終局値は、ブルー圏0.37、ピンク圏0.18、イエロー圏0.19となり、その終局値は、この年齢層における色彩嗜好のポテンシャルプであると考えられる。したがって、潜在的色彩嗜好の構造を、現時点において知ることが可能となる。